

# 日本庭園学会ニュース

*The Academic Society of Japanese Garden News*

NO. 66  
平成 23 年

案内 平成 23 年度全国大会

発行 日本庭園学会 (会長 藤井英二郎)  
〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-1  
(有) 造園会館気付  
TEL(03)-3462-2850 FAX 03-3464-8465  
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>



# 平成23年度 全国大会 スケジュール

日時：平成23年6月11日（土）

9：00～16：40

会場：東京農業大学世田谷キャンパス  
18号館1階 1811 演習室

9：00 受付開始（18号館1階ロビー）

9：30～09：40 開会挨拶  
藤井英二郎（日本庭園学会会長）

9：40～10：00 東日本大震災にともなう日本庭園学会全国大会開催の経緯  
栗野隆（平成23年度 日本庭園学会全国大会実行委員長）

10：00～12：00 研究発表会（午前の部）

12：00～13：30 昼食休憩／理事会

13：30～14：00 総会等

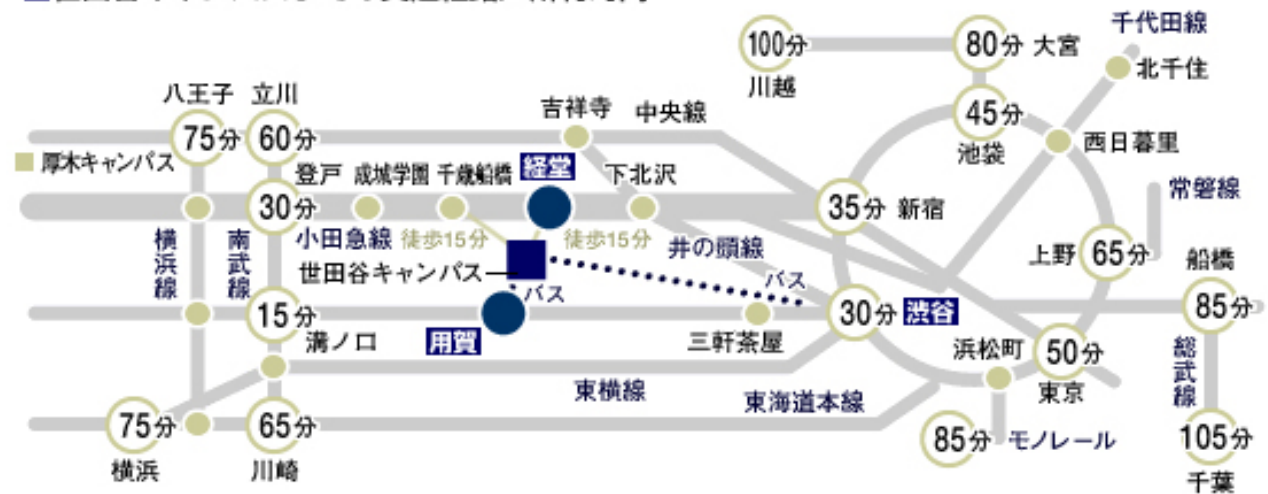
14：00～16：30 研究発表会（午後の部）

16：30～16：40 閉会挨拶

情報交換

（開始時間・場所については大会開催中に通知されます）

## ■世田谷キャンパスまでの交通経路／所有時間



時間はあくまで目安です。時間帯によって所用時間は前後します。

山の手線

◆ 渋谷駅下車（渋谷駅西口）

□ バス＜渋谷駅～農大前＞（30分位）

小田急バス 成城学園前駅西口行……（渋24）

調布駅南口行……（渋26）

東急バス 成城学園前駅西口行……（渋24）

祖師ヶ谷大蔵駅行……（渋23）

小田急線

◆ 経堂駅下車 南へ徒歩15分（駅からの地図）

◆ 千歳船橋駅下車 南へ徒歩15分（駅からの地図）

□ バス＜千歳船橋駅～農大前＞（5分位）

渋谷駅行……（渋23）

等々力操車所行……（等11）

用賀駅行……（用01）

東急田園都市線

◆ 用賀駅下車 徒歩20分

## 研究発表会 発表要旨

(10:00-10:30)

## 1. 中国庭園における太湖石の用途・産出に関する考察

河原武敏

わが国には存在せず中国の庭園では必ず見られる太湖石について、中国人の持つ怪石観と古文書に現れた文献を既に2回に分けて発表した。今回は引き続き太湖石が庭園施設としてどのような用途があり、またこの産出にともなう成因、種類、産地、品質、採石、運搬、保存に関して考察する。これによって太湖石鑑賞に必要な基礎知識を明らかにした。

(10:30-11:00)

## 2. 江戸東京におけるクロボク石の利用と庭園への応用

鈴木誠 (東京農業大学造園科学科)

荒川淳良 (株式会社岩城)

松本恵樹 (春秋設計工房)

服部勉 (東京農業大学造園科学科)

黒ボク石は、江戸時代より江戸東京において特徴的に使用されてきた石材である。岩石学では溶岩であるが、庭園石材としては黒ボク石(ボクは石辺にと記すのが慣例)と呼称される。黒ボク石の庭園等における用途は、単独で使用される組み合わせ、積み石として形状を工夫し整え、庭園では土留め擁壁、池畔護岸などとして見ることができる。現代に遺る黒ボク石を利用した石組み例、庭園景の表現とその特徴を報告する。

(11:00-11:30)

## 3. 史跡大内氏館跡池泉庭園の復元整備

増野晋次 (山口市教育委員会)

多々良美春 (山口県文化財保護審議会委員)

山口県山口市に所在する史跡大内氏館跡は、室町時代の守護大名大内氏の居館跡である。山口市教育委員会では、昭和53年度から発掘調査、平成7年度からは史跡整備を行っている。平成22年度には史跡南東部で確認された池泉庭園(15世紀末頃作庭、16世紀中頃廃絶)の復元整備を行った。今回の報告では、本庭園の発掘調査及び整備について報告する。

(11:30-12:00)

## 4. 駒井病院における園芸セラピーガーデン制作 「想い出の小道」

田中惇 (群馬県渋川市土木部土木管理課・ペイサージュヌーボー)

鈴木誠 (東京農業大学造園科学科)

群馬県高崎市の駒井病院(介護老人保健施設や、グループホーム、デイサービスセンターなど併設)において、80㎡ほどの園芸セラピーガーデンをデザイン施工し2010年9月に完成させた。デザイン段階では、病院でのヒアリング、介護体験、行動観察など、関係する患者、病院職員、造園業者など多くの主体の要望調整と協働の実践を図り、実際に施工して制作した。この庭園の制作過程と完成後の利用について報告する。

(14:00-14:30)

## 5. 佐崎可村の経歴と作庭事例一大隈・渋沢両家を中心として一

正田実知彦 (東京農業大学大学院農学研究科造園学専攻)

近代庭園史研究において庭園デザイナーや庭師に関する研究は、京都の七代目小川治兵衛(植治)を中心に行われており、その他の人物に関する研究事例は乏しい。そこで本研究では、明治初期の東京で、大隈重信や渋沢栄一の庭を築庭し活躍した、築庭家・佐崎可村の出自と作庭事例、煎茶道との関わりなどを明らかにし、近代庭園史上における佐崎可村の位置づけと、造園界に与えた影響を明らかにする。



平成22年度関西大会研究発表会の様子



(14:30-15:00)

## 6. 明治期の庭園におけるイギリス風景式庭園の影響

村岡香奈子

18世紀の英国で流行した風景式庭園は、アディソンやポープの庭園論、中産階級のイタリア旅行ブーム、政治思想としてのゴシックを背景に誕生した、人工的に自然な景観を造り出した庭園であった。風景式庭園の代表例とされるローシャム、スタウアヘッド、ブレナム・パレスについて、その庭園デザインの特徴、邸宅と庭園の関係性を考察した上で、明治期の日本庭園が英国風景式庭園の影響を受けているとする見解について検討する。

(15:00-15:30)

## 7. 足利の近代庭園・新藤家庭園について

足立佳代

足利市では平成20～21年度にかけて、これまで調査がされていなかった市内の庭園調査を実施し、寺院や住宅庭園を確認することができた。特に近代において足利の主要産業であった織物業が盛んであったため、織物業や関連産業を営む実業家等が競って庭園を作庭し、そうした庭園が良く残されていることが明らかとなった。特に今回紹介する新藤家は明治から昭和初期にかけて織物業を営んだ実業家で、その住宅に造られた庭園は台地の縁辺という地形を活かしたダイナミックな庭園で、市内でも例のない優れた庭園といえる。

(15:30-16:00)

## 8. 龍安寺方丈庭園の作庭の意図について

杉尾伸太郎 (株式会社プレック研究所)

龍安寺方丈庭園の作庭は中国の五台山を意図したものであり、具体には醍醐寺に伝わる白描図の五台山文殊菩薩騎獅像をなぞって創られたものと看做されるが、他の意図に付いても、その可能性に付いて考察を加えたい。本発表においては特に揚子江の鎮江にある金山寺らを模したものであるという説等について言及する。

(16:00-16:30)

## 9. 中国明代私家園林拙政園の初期庭園構成に関する史的考察

孫旻愷 (千葉大学大学院園芸学専攻)

藤井英二郎 (千葉大学大学院園芸学専攻)

世界遺産である中国私家庭園拙政園の最初の設計意匠及び庭園構成を検討する必要があると考えられる。現在拙政園に関する研究は現存する庭園空間の分析に留まり、拙政園開園当時の設計意匠や庭園構成に関する研究はまだ進んでない。本研究は、拙政園が後の中国私家園林、園林著作、造園者に及ぼした影響と16世紀における日本庭園の発展における中国の園林文化の受容や吸収に関する研究にとって重要な基礎資料になると考えられる。よって本研究は、既往研究を踏まえつつ、中国明代江南私家園林の設計意匠や庭園構成における事例研究とし、大量な文章や絵画など当時の庭園構成が記録された史料を解析するうえ、拙政園の現状地図に基づき、初期園林の様子を検討、分析し、拙政園初期状態を復元し、その庭園構成と設計意匠を考察することを目的とする。

## J-STAGE における学会誌の新規公開について

J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) は、日本国内の科学技術情報関係の電子ジャーナル発行を支援するシステム。

J-STAGE が JST リンクセンターと連携することにより、J-STAGE 上で公開されている論文は、ChemPort、PubMed、CrossRef を経由し、海外の様々な電子ジャーナルサイト上の論文と相互にリンクされます。また、電子ジャーナル公開とともに投稿から査読・審査までを

オンライン化するシステムを利用機関に提供している。(J-STAGE の HP より引用)

この度、その J-STAGE に日本庭園学会誌 Vol.1993(1993) - Vol.2008(2008) が新規公開されましたので、ぜひご利用下さい。

今後発行される学会誌に関しても順次掲載される予定となっている。

URL : [http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop\\_ja.php?cdjournal=jgarden1993](http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jgarden1993)

## 報告 平成 22 年度 関西大会シンポジウム

平成 22 年 11 月 27・28 日

今回、初めて庭園学会の関西大会に参加させて頂いた中で、新たな視座としての考庭学について深く考えさせられた。私自身は全く別の分野の研究を行っているため、殆ど白紙の状態で大変を聴講したが、大変わかりやすく、興味を引かれる内容ばかりであった。庭園に関する従来の研究成果の厚みを知ると同時に、まだまだ謎があるその奥深さに驚かされる。

現在、私は、京都市役所と京都市内の大学が連携して行っている庭の調査に参加している。そこでは、従来の町家の庭という括りを広げ、ハシリニワやミセニワなども庭として捉え、それら多様なニワがどのように変遷してきたかを調査している。様々な町家を訪ねていくと、実に多様な庭がそこには存在していることを知ることができる。ツボニワやオクニワなども時代や所有者の変化によって色々な変遷を辿っている。さらには、所有者ごとの要望で変化を来していることもあるなど、生きた庭がそこには展開しているのである。

数多くの町家の庭の変遷をみてくると、人々が時代ごとにどのような庭をどうして作ってきたのか、または庭とは何なのかといったことを深く考えさせられるようになる。これからも新たな知見が得られることを期待してやまない。大会に参加できたことを深く感謝します。

内田光枝（京都造形芸術大学大学院博士課程）



長江家の通り庭の見学風景



長江家の座敷庭の見学風景



シンポジウムの発表風景



角屋の座敷庭の見学風景

## 関西大会シンポジウムに関する 情報提供のお願い

平成 23 年度の関西大会シンポジウムは、平成 23 年 10 月 22 日、23 日に京都市内で開催される予定である。シンポジウムのテーマは、行政が指定・登録する文化財庭園の修理・維持管理の具体的な進め方である。

これまで関西支部では、関西研究会の一つ文化財庭園部会において、文化財庭園の修理・維持管理の実例に基づく研究発表が行われてきた。また、同時に修理・維持管理の実務担当者を中心として、修理現場の視察会を実施し、積極的に意見交換を行っている。今回のシンポジウムは、本年を含めた 3 年間にわたる関西研究会の実績に基づいて計画が進められている。

しかしながら、関西研究会の対象とされている文化財庭園は、現時点では京都市内に限定されているため、全国の事例については反映できない状況にある。そこで、より実のあるシンポジウムとするために、全国の文化財庭園の修理・維持管理に関する事例の紹介や情報の提供をお願いします。

シンポジウムの資料としては、文化財庭園の修理・維持管理ハンドブック（概要版）を作成する計画としている。ご提供頂いた事例紹介や情報提供は、ハンドブックに反映される予定。詳しくは下記まで問い合わせ下さい。

日本庭園学会関西支部事務局 担当：今江秀史

E-mail:mukq95755@hera.eonet.ne.jp ■

## 会費納入のお願い

平成 23 年度の会費納入のお願いを全会員に送付しております。納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入頂きますようお願いいたします。 ■

## 表紙の写真

【京都市指定名勝 遺香庵庭園】

## ■編集後記

平成 23 年度全国大会は、当初予定を変更して 6 月 11 日(土)の 1 日間に集約して行われる運びとなりました。しかしながら、本号に掲載しておりますように、研究発表会では 9 件の発表が行われる予定です。いずれも興味深く、今後の庭園研究において新たな展開を予感させるテーマだといえるでしょう。多くの会員のご参加をお待ちしています▼日本庭園学会誌が J-STAGE に公開され、本学会の活動がより広範囲紹介されることとなりました。これを機会に、より多くの研究論文を学会誌に投稿していただきますよう、お願いいたします。特に研究発表会で口頭発表されたものの、学会誌に研究論文としての掲載をなさっておられない会員は、積極的に投稿なさってください▼しばらくページ数を減じて発行してまいりました本「学会ニュース」ですが、次号より再び連載企画・各種情報をまじえて発行する予定です。会員諸氏からの情報提供も引き続きお待ちいたしておりますので、今後ともご愛読のほど、よろしくお願ひいたします。(T. N)

■学会ニュースへの投稿や、本誌「学会ニュース」やホームページ作成に興味があるという方は、下記宛に郵送または FAX にてご連絡頂けますよう、よろしく願ひます。

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学

日本庭園・歴史遺産研究センター気付

日本庭園学会 広報委員会「学会ニュース」係

FAX(075)791-9342

編集長／仲 隆裕 編集・写真・構成／今江 秀史

協 力／内田光枝、木下紘子

## 日本庭園学会広報委員会

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342